

「初年次セミナー」

「西洋史の見方」

レポート作成の手引き

この授業では学期末にレポートを提出してもらいます。大学生らしい論文・レポートはどのように書けばよいのでしょうか、「パウロの裁判」を例にとって作成の手順を説明します。

レポート提出要領

テーマ：自由

枚数：自由

※ワープロ・ソフトで作成し印刷して提出する。

締切：授業時間に連絡する

提出先：井上研究室持参または自宅宛送付

注意事項

- ①参照した文献のリストを付けること。
- ②ネット（HP）の丸写しは不正行為とみなす。
- ③繰り返し推敲し、きちんとした文章にすること。

仮想大学文学部
井上浩一

目 次

1、テーマの決定（ステップ1）	……	1
2、予備調査・事前調査（ステップ2）	……	1
3、アウトラインの確定（ステップ3）	……	3
4、文献調査・収集（ステップ4、5）	……	3
5、文献を読む。カード・ノートを取る。（ステップ6）	……	6
6、最終アウトラインから執筆へ（ステップ7、8）	……	7
7、清書・仕上げ（ステップ9、10）	……	8
付録		
文献案内	……	9
図書館実習 練習問題	……	10
【参考資料】		
読書ノートの作り方——レーニン『哲学ノート』より	……	11
論文の組み立て（1）——戸田山和久『論文の教室』（日本放送出版協会）より	……	12
論文の組み立て（2）——澤田昭夫『論文の書き方』（講談社）より	……	14
推敲の仕方——本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫）より	……	15
推敲の実例——先輩のレポートより	……	16
先輩のレポート・テーマ一覧	……	18
初年次セミナー	……	19
西洋史の見方	……	20
レポートの実例「孤独の皇妃エリザベート」	……	21
レポート作成体験記	……	29

1、テーマの決定（ステップ1）

まず西洋史に関する知識を総動員して、取り上げるテーマを決定しましょう。他の授業では先生の方からテーマが指定されることが多いようですが、「西洋史の見方」では受講生が自分でテーマを決めます。テーマの選びかたで差がつくかもしれませんが、今年度の講義テーマは「キリスト教の成立」ですが、レポートは西洋史でキリスト教に関係するテーマなら何でも可ということにします。「やっぱりイエスだ」「十字軍も面白そう」「ルターの宗教改革」「先生も知らないようなマイナーなテーマにしてやろう」ぐらいの決め方でも結構です。授業で取り上げたテーマと重なってもかまいません。ただ、その場合は講義ノートの丸写しにならないように、興味をもった点をさらに詳しく調べてみるのがよいでしょう（以下、例に挙げているパウロの場合がそうです）。

授業でパウロの話の話を聞きました。キリスト教が世界宗教になるにあたって決定的な役割を果たした、とノートにはあります。そうだ、パウロで行こう。ペテロと意見の対立があったともノートにはあります。パウロは奴隷制を否定しなかったし、ローマ皇帝への納税も認めていたという説明がとくに気になりました。授業では詳しい説明のなかったパウロの裁判について調べてみたら、面白いレポートになるのではないのでしょうか。

※ここではテーマ決定段階でかなり絞り込んでいますが、これは授業でパウロを取り上げたからです。

2、予備調査・事前調査（ステップ2）

とりあえずテーマが決まりました。しかし、材料がなくてはレポートは書けません。レポートを書くためには資料が必要です。どうすればよいのかなあ。テーマが決まったら、次に、そのテーマに関する基本的な情報を集めます。予備調査です。

予備調査の方法はいろいろあります。ネットで「パウロ」を検索するというのが、もっとも手軽な方法ですね。とくにウィキペディアなんか便利です。でもちょっと待ってください。無知な人がネット検索をすると、場合によっては「とんでもレポート」になってしまいます。

Aさん「ネットで『パウロ』を検索してみました。何十万件もヒットしたのでどうしましょう。」
井上「図書館に入っている図書や辞典は信頼できるものばかりですが、インターネットのHPは玉石混淆で、便所の落書きのようなページもあります。注意してください。ネットのフリー百科辞典『ウィキペディアWikipedia』も、ちょっと調べるのに便利ですが、やはり、まずは図書館で調べて、基本的なことをしっかり勉強したうえでHPを利用しましょう。」

一番便利で、信用できるのはもちろん学術情報総合センター（大阪市立大学では図書館ではなくこう呼びます。以下学情と略します）が提供してくれる情報です。学情がどこにあるのか知らない人、学情を使うのに必要な利用者カードをもっていない人はまさかないでしょうね。

学情へ行ったらまず2階の参考図書コーナーに行きます。参考図書コーナーには辞典や文献案内があり、自分のテーマについて大雑把なところを知ることができます。百科事典（平凡社・ブリタニカ）や『世界歴史大事典』『古代ローマ人名辞典』『西洋史辞典』などで、パウロや原始キリスト教について大体のところを調べます。なお歴史関係の辞典は分類番号の200番台です。テーマがパウロですから、キリスト教関係の辞典なども参照します（分類は190番台、『キリスト教人名辞典』も便利）。そこに書かれていることは、文献探しをはじめ、これから行なう本格的な勉強のために必要なものです。

2階のレファレンス・カウンターへ直行し、「パウロの裁判に関する文献を教えてください」と相談するのはやめましょう。いきなりネット調査よりは確実な方法ですが、まずは自力で文献調査。本当に困った時に、レファレンス係の人に相談します。

辞典を調べるときにはクロス・レファレンスをします。つまり「次の項目も見よ」と指示されている項目も引いてみるのです。辞典の索引も活用して下さい。索引だけ別冊になっている辞典もあります。次々とみてゆくと、いろいろなことがわかってきます。わかったことはノートかカードに書き抜いておきます。参考文献が挙げられていたら、それは別に文献リストとして書き抜いておきます。ノートよりもカードの方があとでまとめる時に便利です。とくに文献リストはぜひカード式にしましょう。

（閑話休題） クロス・レファレンスというと、私はSF作家かんべむさしの『水素製造法』という小説を思い出します。文系の男が入社試験を受けたところ、論文を書かされ、そのために国語辞典の貸与を受けるのですが、1問だけ「水素の製造法を述べよ」という理系の問題にも解答しなくてはなりません。理科の知識のまったくないこの男は、国語辞典をひねくり回して、なんとか水素製造法を見つけようとします。「水素」からはじめて、関連項目を次々と引きまくっているうちに、水の電気分解という正解にいったんは近づくのですが……、という話です。

原始キリスト教会やローマ帝国については、大体のことを「西洋史の見方」の授業で勉強しました。どうもよくわからん話やった、寝てたという人は、参考図書室の『世界歴史大事典』や『世界史大年表』などで再確認してください。百科辞典もつかえます。調べたことは同じようにカードにとっておきます。

なかにはこれだけ調べただけでレポートを書く人もいますが、ここまでは小手調べ。予備知識のある人は省いてもかまいません。この予備調査で、どうもこのテーマは調べるのが大変そうだとということがわかれば、深入りしないうちにテーマを変更します。パウロは超有名人ですから、文献も多いので心配はいりません。でも、たとえば「新神学者シュメオン」などは『西洋史辞典』にも出てきません。ネット検索したら1件のみヒットしました。こんな特殊なテーマは無茶です。それでもやりたいという人は覚悟を決めて取り組んでください。結果は保証しませんが。

(注意事項) HPをそのままダウンロードして印刷したレポートは「不正行為」に該当します。「不正行為」があった場合、その学期の試験は**すべて零点**にされることになっています。留年確実！下手をすると退学処分！！発見した教師の身になって（教員には不正行為を通知する義務があります。でも通知したら、その学生は処分されます……）、**絶対にしないで下さい。**

3、アウトラインの確定（ステップ3）

大雑把なことがわかったこの段階で、レポートの大枠（アウトライン）を決めます。大体の章立てを考えてみることによって、これから何を調べればよいのかがわかります。パウロの逮捕の原因は何だったのか、イエスの裁判と比べてどんな特徴があったのかを中心にまとめるのも面白そう、さてよ、それだとイエスも調べなければならないから損（？）だ。なんで2年間も判決が出ないままなのか、どうしてローマまで行って裁判を受けることになったのか、果たしてローマでどんな判決が下ったのか、いや待てよ、他にもまとめかたはあるはず……、まずは第1章でパウロの生涯を概観して、次にローマ帝国のユダヤ支配についてまとめて、……ああでもない、こうでもない。自分なりの構想を練る……つらいレポート作成のなかでも、わずかに楽しいひとときかもしれません。

4、文献調査・収集（ステップ4、5）

さてこれからが本格的な勉強（むしろ研究と呼びたいですね）です。パウロ個人や原始キリスト教史、ローマ史に関するもう少し専門的な文献を探します。学情にある文献を探すためには、2階リファレンスゾーンのOPACを使います。コンピュータ検索は苦手という人は、来週の学情実習でしっかり使い方を学んでください。

市大のOPACは繰り返し改良されて、以前よりもずっと使いやすくなりました。それでも上手に検索するには、学情OPACの「癖」を知っておく必要があります。検索のコツは何度も文献検索をしてゆくうちに身に付くのですが、学情実習ではそれを一気に学ぶことができます。

コンピュータの前に立つと、簡易検索画面が出ています。キーワード欄に、探したい文献のタイトルを入れてみましょう。キーワード欄のところへポインターを動かしてマウスを左クリックします。ポインターって何？、マウス？クリックって？？……隣で検索している人に聞いてください。「パウロ」と入力します。「パウロ」という言葉を含む本を探せという命令です。しばらくすると「パウロ」という言葉を含む本で市大にあるもののリストが出てきます。おっと41冊もある。嬉しくなってみてみると、『子どもってすばらしい』という本もありました。出版社が女子パウロ会です。以前のOPACは「サンパウロ」……ブラジル移民の本も拾ってました。コンピュータは馬鹿正直になんでもかんでも拾ってしまうので、これは使い物にならない、というような本もリストには含まれています。それでもパウロに関する本がかなり見つかりました。木下順治『パウロ 回心の伝道者』などです。とりあえずメモしましょう。参考文献リストを作るときには、著者名・書名・発行所・発行年度という4つの書誌データを書きます。本を借りるために分類番号（請求記号）・所在（配架場所）もチェックしておきます。買うつもりなら定価も。ページ数をチェックして分厚いのはやめる??、おいしい。

もっと文献を探して見よう。そうです、それが大切です。一冊見つかったから、それを読んでまとめるのはまだまだ素人。プロのレポーター（レポートを書く人？）なら文献調査を徹底的にしなければ……。今度は詳細検索を試みましょう。いろいろな条件から検索できます。たとえば件名の項目に「パウロ」と入れて、同じように検索をクリックしてみましょう。「パウロ」と関係のある文献（表題に「パウロ」がなくても）を探せという意味です。4件だけです。もっと探そうと、件名を「キリスト教」でやってみると763件。多すぎるのも困ります。「古代 キリスト教」と入れてみると21件、「ローマ キリスト教」だと9件。文献検索する時には、小さすぎず、大きすぎないぴったりの件名で検索するのがコツです。そのためには、そのテーマに関する基礎的な知識が必要です。予備調査が必要なわけですね。

そうだ、パウロの活動を記した『使徒行伝』を読もう。簡易検索に「使徒行伝」と入れて……。おお、授業で言っていたM. ヘンゲル『使徒行伝と原始キリスト教史』が見つかった。そうだ、さっきの木下さんが他にも似た本を書いているかもしれない、ようし、今度は著者名で検索してみよう。そうです、これが芽づる式文献調査法！です。著者名に木下順治と入力して検索すると、5冊見つかりました。残念ながら例の本以外は直接パウロとは関係なさそうです。

調子が出てきました。授業プリントにあった佐竹明『使徒パウロ』も探してみることにします。「佐竹明」で検索してみます。1冊だけ、だめです。佐竹明『使徒パウロ』は市大にはないようです。

とりあえず、『パウロ 回心の伝道者』を読んでみることにしました。請求記号を書いたメモ（文献カード形式がよい）をもって3階の開架図書へゆきます。黒ラベルの本とピンクのラベルの本は、

同じ分類番号でも違う棚に置かれていますから注意してください。あつた！本棚は分類番号順に本が並べられていますから、隣に同じテーマの本が見つかるかもしれません。もうこんなに参考文献が見つかって困ってしまう、ということになるかも。とりあえず『パウロ 回心の伝道者』を、他の人が借りてしまう前に早い目に借りておこう。結構ですね。しかしあまり早く借りすぎると、レポートの追い込みの時に返却期限が来てしまうよ。

図書によっては学生が立ち入りできないところに置かれているものもあります。地下2階・3階とか、7階にある場合は、2階のメインカウンターで手続きをしてください。各学部にある場合もカウンターで相談してください。

木下さんの本を閲覧室でパラパラと読みましたが、なかなか難しい。読んでいてキリスト教史に関する知識の不足を痛感しました。ローマ帝国についてもわからないことが多い。まずは初歩的な、一般向けの入門書から読んでゆこうと思いました。そういう場合は、キリスト教史概説や世界の歴史シリーズなどが手ごろです。学情にも何種類か入っています。——付録参照

木下さんの本は役に立ちそうですが、分類番号にもあるようになんといっても神学の本です。もっと歴史に即した文献も探したいものです。そうだ、世界の歴史シリーズに弓削達の『ローマ帝国とキリスト教』があった。これを読んでみよう。弓削さんがもっと他にも書いているかもしれない。著者名で調べてみよう、あるある。⇒これがイモヅル式文献調査法。

少しずつ勉強すると、トロクメという外国人が『使徒行伝と歴史』という本を書いているということもわかりました。これも読んでみよう。「トロクメ」と入れると2冊、『聖パウロ』という本がありました（これは先にパウロで検索して知っています）。『使徒行伝と歴史』は見つかりません。

Aくん「それでは原書を探そう。OPACで……、うん？どうやっちゃいいのや？」

Bさん「私に代わりなさい。簡易検索の欄に Torokume と入れると、……あらっ、ないわ。」

井上（偉そうに）「君たちの探し方が悪い。洋書の場合、原綴りを入力しなさい。トロクメさんはフランス人、Trocmé さんです。Trocmé と入れると、ほらごらん、さっきの2冊……。」

Aくん・Bさん（気の毒そうに）「……………」

井上（気を取り直して）「相手がフランス語ですから、手ごわいんです。簡易検索では無理です。詳細検索をやってみましょう。Trocmé っと、」——やっぱり日本語の2冊だけ。

井上（学情の人を睨んで）「……………」（ずいぶん……の多い会話ですね。）

学情の人「すみません、うっどこにない本も結構あるんです。」

パウロの裁判はキリスト教の歴史にとって重要な事件でした。もう少しパウロの裁判について詳しく調べてみたいものです。「パウロ」と「裁判」を掛け合わせて検索しても文献は見つかりません。どうすればよいのやら、ここで生きてくるのが予備調査およびキリスト教史の基本勉強です。パウロの場合は授業でやりましたので、逮捕や裁判が『使徒行伝』の最後の部分に記されているということがわかっています。他のテーマでも、少し勉強すれば同じようにわかります。さっそく探してぜひ読みましょう。

Cさん「前期は西洋史の見方に賭けているので、なんともっと本を探して読もうと思います。いざとなれば、原書も読んでみようと思います。」

井上「何を賭けてるのか知りませんが、それなら**国会図書館のOPAC**を検索してください。学情のHPからも入れます。学情OPACと同じように、著者名、書名、件名などから文献を調べることができます。佐竹明さんの本も国会図書館にはもっとたくさん入っています。洋書を探すには、まず日本語のやや専門的な本の参考文献や註を見ましょう。」

日本で発行された本は必ず国会図書館に入りますから、国会図書館OPACを使えば日本で出た本はすべて検索できます。学情にない本についても情報を得ることができるのです。ちなみに「パウロ」で検索すると565件も出てきます（『サンパウロからアマゾンへ』という本も入っていますが）。書誌データを写し取って、他の図書館で探してみましょう。もっと徹底的に探したい人は、**C i N i i**や**Webcat**、**雑誌記事索引**、さらには海外のデータベースの検索もできますが、たかが2単位のためにそこまですることはないでしょう。「いや私はヤル！」という奇人変人は、井上まで相談してください。

公立大学最大の蔵書数を誇るとはいえ、必要な文献がすべて市大で揃うわけではありません。また1冊しかない本を誰かが借りてしまったということもよくあります。学生生活のうちには、他の図書館を利用しなければならないことがきっとあります。大阪府立図書館・大阪市立中央図書館など自治体の図書館は利用が容易です。他大学の図書館を利用するには、カウンターで紹介状（閲覧依頼状）を発行してもらいます。東京ディズニーランドへ行ったついでに、東大の図書館を覗いてみては？そして、全国どこへ行っても、うちの学情ほど立派な図書館はないということを実感してください。

5、文献を読む。カード・ノートを取る。（ステップ6）

パウロに関する本、キリスト教史の入門書、『使徒行伝』の注解書、いろいろ文献が見つかりました。文献リストに書き出したものを借りて読みましょう。閲覧室で自由に読むことができます。家にもって帰って読もうと思えば、貸し出しの手続きが必要です。一回に7冊まで借りられます（レポート書くならそれくらいは読めということでしょう）。

読みながら重要なところはノート・カードに取ります。書かれていることがよく理解できないこと

があるかもしれません。知らない人名・地名・事項などが出てくるのが原因のようです。手近に『岩波キリスト教辞典』などの事典をおいて調べながら読むようにしてください。2階の参考図書室で勉強するようにすればこの点便利です。

本に書いてあることを抜き書きするときには、どの本の何ページかということメモしておきます。また読みながら自分で考えたこと、疑問に思ったこともカード・ノートに書き込みます。書物から学んだことと自分の意見とをはっきり区別して書くのが、レポートや論文の書き方のルールですから、準備段階でもその点に注意してノートを取ります。本を読んでノートを取るのには、講義ノートのとり方と少し要領が違います。〇〇ページのレーニン『哲学ノート』を見てください。

読んでいくうちに他の文献が引用されているのに気づくことがあります（参考文献の一覧表を付けている本も多い）。関係がありそうと思ったら、さっそく参考文献リストに追加しておきましょう。いずれ探し出して、読むことになるでしょう。なお新しい本に古い文献が引用されることはあっても、その逆はありませんから（当たり前ですが）、文献探しという点では、なるべく新しい本を読むほうが有利といえます。

この段階でHPも検索してみましよう。要領は同じです。キーワードを並べて入れて、検索をクリックします。パラパラと（HPを大雑把に見てゆく時の表現はカチカチとかな）見てゆきましょう。見えそうなページがあれば、ダウンロード・印刷しておきます。アドレスのメモも忘れないように。

6、最終アウトラインから執筆へ（ステップ7、8）

いろいろ調べて材料が集まりました。ノート・カードもそこそこの分量になりました。パウロやローマ帝国の裁判についてだいぶ分かったような気がします。ノートやカードを整理して下書きを始めましょう。

執筆にとりかかる前に全体の構成を考えます。調べているうちにテーマがはっきりしてきましたから、執筆にかかる前にレポートの見取り図、設計図を作るのです。文献調査の前に作っておいたアウトラインをもう少し詳しく作り直します。章立てを決め、各章で書くことを大体まとめます。章から章への展開にも注意します。もっとも、短いレポートでしたら、大まかな構成を考えるだけで十分です。

文章を書いているうちに自分の考えがまとまったり、よくわからない点がでてきたりしますから、とりあえず下書きを書いてみることです。最初から書く必要はありません。アウトラインがしっかりしていれば、まとめやすそうなどころから書き始めてもかまいません。序論はむしろ最後に書くのが普通です。

まとめようとしたら、同じことについて本によって書いていることが違うのを発見したりもします。「困ったなあ、どうしよう」と思わないで下さい。本によって違うところは、もっとよく調べてみる値打ちがあります。よく調べて自分はこう考える（本の著者に「あんたは間違ってる！」と言ってやる）というところまでゆければ、論文・レポートの「目玉」になるでしょう。

正確でわかりやすい文章を書くために一番大切なのは推敲です。下書きを読み直し、意味の通りにくいところ、わかりにくい表現、無駄な繰り返し、論理の飛躍……をチェックします。文章術の本としては、本多勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫）を推薦します。その一部を紹介しましょう（参考資料参照）

7、清書・仕上げ（ステップ9、10）

きちんと清書します（手書きの場合は原稿用紙）。レポートですが、レポート用紙にごちゃごちゃ書くのはよくありません。論文・レポートの最後には参照した文献を挙げておきます。論文はもちろん、レポートでも参考文献リストを付けるのが基本的ルールです。ちょっとだけ読んだ『使徒行伝と原始キリスト教史』も挙げておきました。なんだか儲かったような気持ちです。参考文献がズラッと並ぶとレポートが立派に見えます。だからといって、格好をつけるために、読んでもいない本を挙げるのはルール違反。

（閑話休題） 単位はどうなる？評価は？

D君 「ところで先生、大学のレポートってどれくらいの分量書けばいいのですか。書きすぎても損な気がします。効率よくAをとりたいのですが。」

井上 「科目によって違います。字数指定のない場合、迷いますね。歴史学の場合ですと、ある程度の事実関係を書き込まなければなりませんから、総合教育科目といっても4000字くらいは書かないとちゃんとしたレポートにはなりません。ちなみに文学部西洋史の卒論は本文が2万字くらい、これに詳しい注釈がつきます。「西洋史の見方」では、卒論より長いレポートを出す人がいる一方で、たった300字という猛者もいます。いくら長さより中身といっても、これではねえ。」

D君 「先輩から、楽勝の井上と聞いているんですが、、。そう聞いて、虎の子の『優先カード』も出したのですが、だめですか？やっぱりだめですか？？」

井上 「うううーん」

※この最後の科白、以前はちゃんとした発言でしたが、私の『レポート作成の手引き』が大阪市立大学教務部から発行されることになった時に、まずいと思い「うううーん」に変えました。

付 録

文献案内

①西洋史関係でレポートを書くのに便利な全集・叢書・文献案内として次のようなものがあります。

『岩波講座世界歴史』……やや専門的ですが、世界史の各分野を網羅した大講座。旧版は全30巻で時代・地域別になっています。新版は全28巻、時代・テーマ別に論文が掲載されています。それぞれ総目次をチェックしてみましょう。私もどこかに書いてます。

『世界現代史』『世界の名著』『世界古典文学全集』……いずれも開架閲覧室に並んでいます。

『世界の歴史』シリーズ

各出版社からでています。講談社版は少し古いが入門書として定評があります。中央公論社の『世界の歴史』は参考文献も詳しい。私も書いてます。

『世界各国史』シリーズ、山川出版社

『イギリス史』『フランス史』など、国・地域別の概説書です。参考文献、年表、地図、その他付録の資料が詳しく便利。新版も続々と刊行されています。『ギリシア史』には私も書いてます。

『世界歴史体系』シリーズ……上記の『世界各国史』シリーズをもう少し詳しくした便利な入門書。前沢伸行他『文献解説 ヨーロッパの成立』、南窓社、1981年。新版2007年

伊藤貞夫他『西洋古代史研究入門』東京大学出版会、1997年

佐藤彰一他『西洋中世史研究入門 増補改訂版』、名古屋大学出版会、2005年。私も書いてます。

望田幸男他『西洋近現代史研究入門 第3版』、名古屋大学出版会、2006年

服部良久他『大学で学ぶ西洋史〔古代・中世〕』、ミネルヴァ書房、2006年

小山哲他『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』、ミネルヴァ書房、2011年

いずれも西洋史に関する研究入門書、文献案内が便利。参考図書コーナーまたは3階の開架図書室にあります。

※他にも文献案内の本は何種類もあります。百科事典などにも文献案内があります。

②古典作品・名著の多くは岩波文庫・中公文庫・講談社学術文庫などで手軽に読むことができます。使徒行伝やパウロの手紙が収められた『新約聖書』はいろいろな訳があります。

③岩波新書をはじめ各社の新書には比較的読みやすいものも多く、いずれもさほど高くありませんから、自分で買って読めます。アマゾンのHPは現在手に入る本の総目録として便利です。

④とにかく参考図書コーナー、開架閲覧室をうろうろしましょう。思いがけない本に出会うかも知れません。この本があったからこのテーマにしようというのは、余りお勧めできませんが、ひとつの手です。自分で文献を探してもよくわからない場合、レファレンス係の人に遠慮なく相談や質問をし

て下さい。

⑤いろいろ文献があつてどの本を読んだらいいかわからない、という人は文献リスト持参で先生に相談して下さい。参考になるのが『**人文学への接近法——西洋史を学ぶ**』（服部良久他編、京都大学学術出版会）の第7章です。西洋史の名著や基本文献が列挙されています。そこに挙がっている本は、仮想大学の授業でも使っているものがあります。是非見ておいてください。

以上、付録は西洋史に関する初歩的な文献案内です。他の分野でも基本的な文献は、学情の参考図書室、開架図書室に並んでいます。なお専門のレポート、さらに卒業論文となるととてもこの程度ではすみません。本格的な研究が必要になります。原史料、高度な学術書、学術雑誌にのっている専門論文、洋書にまで手を広げてゆくことになります。卒論を書こうという人のために『**西洋史関係文献調査法**』も作っています。本格的に西洋史を学ぼうという人にはお渡ししますので、申し出てください。

図書館実習練習問題

1、授業でとりあげた参考文献の一部です。所在を確認してください。

①田川建三『書物としての新約聖書』、勁草書房、1997年

②『使徒行伝』パウロに関する必読文献らしい、岩波文庫にも入っているそうだが……タイトルが違うとか??

③何とかマックさんの何とかQという本。詳しい書誌データは忘れた。どうすれば見つかるのかな。
この本については原書が市大にあるかどうか調べてください。

④共観福音書に関する文献を探してみようか。イエスの病気治療に関する本も見たいものだ。
③、④は探すのが難しいかも知れません（書誌データが不完全）。そんな場合どうすればいいのか、文献調査実習で学びます。

2、レポートに予定しているテーマに関連する文献を、OPACなどを使って探してみましよう。せっかく調べたのですから、書誌データおよび分類番号=請求記号をメモしておくこと。

あなたのテーマについて、学情の司書の方が個別指導をしてくださる（予定）です。この機会をお見逃しなく。

以下省略

「初年次セミナー」「西洋史の見方」

レポート作成の手引き

〇〇〇〇年4月1日 初版発行

編集・発行 井上浩一（文学部）

定価 ××……××円（税込み）

乱丁・落丁は我慢してください。